透析患者数は全国で約三十一万人です。高齢化が進んでおり、糖尿病から透析になる方が増えています。腎臓だけではなく心臓も足も眼も調子が悪いという方が増加しています。それに合わせて本来であればもっと資金を投入していかないといけないのに、我が国は巨額の財政赤字を抱えているために医療費削減の嵐はおさまりません。いかに透析医療を守っていくか、厳しい環境の中で診療の質を落とさずにいい医療を実践し続けられるかが、これからの私たちの課題です。駒ヶ根共立クリニックの先進的な取り組みは、今後のあるべき透析施設の未来像を示してくれているのではと思います。

透析は週に三回病院に通い、針を刺されて半日がかりで、しかもずっと続く治療です。透析をされていない方が本号をお読み下さることにより、透析患者さんの日頃の思いを知って頂き、透析へのご理解が深まるなら、透析診療に携わる一人としてこれに勝る喜びはありません。

この活動が末永く続くことを祈念いたします。川柳をお寄せ下さった皆様、駒ヶ根共立クリニックにて治療を受けられている皆様、診療に携わっている皆様、本号の発刊に携われた皆様、発刊にあたり助言や支援をして下さった皆様に感謝申し上げます。

医療法人偕行会　常務理事（透析医療事業部長）
山田　哲也